

令和2年1月19日～24日 岩沼市長が南アフリカを訪問しました

1月19日に岩沼市を出発した市長は、およそ23時間かけて南アフリカ共和国に到着し、在南アフリカ共和国日本国大使館、オリンピックハウス(ヨハネスブルグ市内)、クロフォード校(ツワネ市内)、国立ヨハネスブルグ大学(ヨハネスブルグ市)を訪問しました。

2020年1月20日
在南アフリカ共和国
日本国大使館

在南アフリカ共和国日本国大使館を表敬訪問し、特命全権大使 丸山則夫氏(写真左から3番目)と懇談しました。



2020年1月21日
オリンピックハウス



21日には、ヨハネスブルグ市内のオリンピックハウスを訪れ、南アフリカスポーツ連盟・オリンピック委員会(SASCOC)、南アフリカラグビー連盟、南アフリカサッカー協会、南アフリカ陸上連盟の皆さんと懇談を行いました。

市長は、東日本大震災からの復興支援への感謝を伝えるとともに、オリンピックを通じた南アフリカ共和国との交流について、意見交換を行いました。

SASCOC及び南アフリカサッカー協会、南アフリカ陸上連盟には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での南アフリカの活躍を祈念して、「感喜」、南アフリカラグビー連盟には、ラグビーワールドカップ2019日本大会での優勝を祝し、「感動」の文字が書かれた色紙を贈呈しました。

なお、この色紙は、文字は市内在住の高校生生川礼菜さん、押し花の装丁は「九良楽の窓」を主宰する鈴木九良子さんの制作によるものです。



SASCOC ヘンドリックス副会長



SASCOC フレイサー氏



南アラグビー連盟 アレクサンダー会長



南アサッカー連盟 ジョルダン会長



南ア陸上連盟 セペング氏

2020年1月22日
クロフォード校

22日には、ツワネ市にあるクロフォード校(Crawford Preparatory Pretoria)を訪れました。クロフォード校の1~7年生(約600名)が集まった合同集会では、東日本大震災時に岩沼市で救助活動を行ってくれたレスキュー・サウスアフリカ(RSA)の消防隊員のスピーチも行われました。



合同集会の様子



救助活動への感謝を述べる岩沼市長



救助活動の様子をRSA隊員が紹介

その後、岩沼小学校の6年生とクロフォード校の生徒たちは、インターネット回線を利用したテレビ会議(協力:株)ドコモCS東北)による交流を行いました。



お互いの国歌を歌う生徒たち



サプライズで実際に救助活動を行ったRSAの隊員が登場



避難訓練での「頭をかかえるポーズ」をとる岩沼小学校の生徒たち

生徒たちは、お互いの国の国歌を歌ったり、お互いの住んでいるまちを紹介したりして、交流を深めました。「地震が起こったらどうするの?」「南アフリカにはゆるキャラはいるの?」「岩沼小学校には制服はないの?」などの質問も飛び出しました。

参加した生徒からは、「楽しかった」「東京オリンピックでは南アフリカも応援したい」などの声があがり、笑顔あふれる交流となりました。



記念撮影の様子

また、交流の記念に、クロフォード校へ「千年希望の丘」をモチーフにした絵本「きぼうのおか～千年先のきみへ～」を贈呈しました。



クロフォード校 クリスティーナ校長



クロフォード校では、後日年長の生徒が年少の生徒に絵本の読み聞かせを行ったとのこと。



2020年1月22日
国立ヨハネスブルグ大学

22日ヨハネスブルグ大学を訪れ、レスキュー・サウスアフリカ(RSA)及びヨハネスブルグ大学の方と懇談しました。



懇談の様子

東日本大震災時に実際に来日したRSAのイアン・シェール代表、ヨハネスブルグ大学健康科学学部学部長シャーム・カーン教授、同学部副学部長クレイグ・ビンセント・ランバート教授ほか6名の方と懇談し、復興支援への感謝を伝えたほか、建設中のレスキュートレーニングセンターの視察を行いました。



最新機器を活用した施設の視察



「感謝」と書かれた色紙を贈呈しました。
(文字: 合川礼菜さん、押し花: 鈴木九良子さん)



RSA シェール代表

ヨハネスブルグ大学
カーン学部長

懇談の中で、東日本大震災時に岩沼市で救助活動を行ったRSA隊員は、「日本人の粘り強さ、負けない気持ちの強さに感動しました。私は短い期間の滞在でしたが、住んでいる人たちはずっとのりこえていかなければならない、本当に感心しています。」と話し、岩沼市長は「今回、日本から14,000km、23時間かけてやってきて、遠い道のりでした。同じようにRSAの皆さんが被災地に乗り越えて来ていただいたことに感動し、感謝しております。」と述べました。